

## 第 84 回 JCBH フォーラム 開催報告

当協議会は昨年設立 30 周年を迎え、6 月に開催された総会に合わせ 30 周年記念式典を開催いたしました。この度、交流委員会が主催するフォーラムにおいては、30 年史でも対談をいただいた当協議会の OB の方をゲストスピーカーにお迎えして、1980 年代、90 年代の日中建協の活動の様子を画像やビデオなども見ながらご紹介いただき、その中で、当協議会が果たしてきた役割や現在から今後へ繋がる展望などについてお話しいただきました。30 周年の年だからこそ開催出来たフォーラムだったと思います。

以前より、私達日中ビジネスに携わる者として、歴史を学ぶことが重要であるということが言われていますが、先ずは、日中建協がかつてどのような取り組みをしてきたのかという、故きを温ねるよい機会となりました。お話しいただきました内容の一部を紹介します。

日 時：2015 年 11 月 10 日（火）16：00～17：30

場 所：フォーラムミカサエコ 7 階ホール

テーマ：「日中建協の 30 年と今後への期待」

《ゲストスピーカー プロフィール》

①当時ご所属の企業名 ②日中建協の活動歴 ③委員会・部会等活動歴 ④印象深い事柄



赤羽靖夫氏

- ①東陶機器株式会社（現：TOTO株式会社）
- ②1988年～1999年
- ③設備材料部会長・運営委員会・訪中団の食事と記録（ビデオ）担当
- ④中国人の仕事に対する熱心さと近代化のスピード。担当した仕事では「上海民楽苑」のモデルルームの完成。



工藤忠良氏

- ①日立化成工業株式会社（現：日立化成株式会社）
- ②1986年～1998年
- ③情報委員長・事業委員会・運営委員会
- ④訪中団参加、訪日団受け入れ、工場案内、中国大使館・新華社通信との交流、10年の歩み編集等。週1回は日中建協に顔を出していました。



村田幸隆氏

- ①東京ガス株式会社
- ②1994年～2002年
- ③事業委員会、設備材料部会、運営委員会
- ④住宅産業界の一員として、同じ会社の仲間以上に親しい関係になれたこと。中国の連綿と続いて来た文化と人の底知れない規模とエネルギー。

◆日中建協の活動の中で深く印象に残っているエピソード

赤羽：私たちが担当した 1980 年代は、中国にとって最も近代化が進んだ時期だったのではないかと思います。毎回訪中をする度に中国が変わっていくことに驚きました。私が初めて北京を訪れたのは 1988

年でしたが、男性の着ている服はほとんど国民服でした。タクシーもあまりなくて、人民タクシーと呼ばれる三輪車がありましたが、行き先と値段を個別に交渉をして乗せてもらうという状況でした。住宅はほとんどがレンガ造りの低層住宅で北京でも高層住宅というのは見かけませんでした。ところが、1991年に建設省と中国の建設部の第1回日中建築住宅会議の訪中団に参加した時には、国民服が少なくなつて背広が増えていましたし、女性の服もカラフルになっていました。タクシーは三輪車から四輪車に変わって、メーターがついているものも見られる状況でした。僅か3年でそれほど進歩したのです。

#### ◆人的交流

**工藤**：当時、海外技術者研修協会（AOTS）を通じて、建材工業管理者研修という中国の政府や工場の幹部を受け入れて研修を行うというシステムがありました。毎年10人から20人の中国の方を受け入れて、約1カ月間の集合研修、或いは工場での研修を行うなど、ソフトの面で大変大きな役割を果たしたと思っています。会員企業各社は訪中だけではなくて、このように訪日も受け入れるということで相互交流が進んで行きました。

—PPTで当時の写真の紹介もいただきました—

**村田**：住宅団地を視察して気になったところを写真に収めてきたのですが、ベランダの使い方として、私は最初は防犯のためかと思っていたのですが違うようで、ベランダを囲って一つの部屋として使われています。そうすると、屋外型の給湯器をベランダに置きますと不完全燃焼を起こしてしまうという問題があります。そこで、日本のメーカーでは、排気筒を上から出せるように工夫をしていると聞いています。



施工中の現場では竹の足場が組まれていました

が、当時はよく見ました。また、現場には壁などに使うレンガが積まれていましたが、日本のようにきちんと整っていないで不揃いでした。その時に印象に残ったのは、レンガというのは不揃いでいいのであって、不揃いの間を埋めて形が出来上がっていくという、逆の意味で印象に残ったことでした。

#### ◆今後の日中関係、日中建協への期待

**赤羽**：我々が担当した1990年代と現代では交流の仕方が大きく変わってきていると思います。中国は今まで、日本からいろんなことを学ぼうという姿勢だったのですが、現在は世界第2位の経済大国になりましたし、海洋進出も少し強引な気がします。中国離れをする日本人が増えてきているのではないかと思います。私には、中国人の気持ちというのは、非常に素朴であると思っています。

今まで30年間交流を続けてきた訳なので、政治の状況に係らず、今後も日中の交流を続けて行っていただきたいと思っています。

**工藤**：1987年、私が最初に中国に行った時に、「理解万歳！」ということばが流行っていると聞きました。もとは周恩来の言葉で、若い時に使った言葉がいろんな政治の局面で利用されているということでした。革命を経験し、闘争に参加した世代とその後生まれた世代とのギャップ、男女や地域間などいろいろなギャップがある中で、お互いに理解することで前向きに進んでいこうという意味だそうです。

これは、国を超えても使える言葉ではないかと思います。日中間の関係は難しい状況にあるかも知れませんが、民間の交流は波風があっても長く続けていくことによって相互理解も深まっていく訳ですので、その為のキーワードとして「理解万歳！」という言葉をご紹介しますと思います。

フォーラムの詳細は、会報誌「日中建協NEWS」No.219号（1・2月号）に詳しく記載しています。